

PTA

やまがた

第31号

平成19年3月発行

・編集発行・

山形県PTA連合会

会長 遠藤 正明

山形市緑町1-9-30

山形県新築西通り会館内

TEL 023 (631) 0055 FAX 023 (635) 4359

・印刷所・

中央印刷株式会社

山形市銅町1-1-5 TEL 023 (631) 5533



県P連活動スローガン

『はぐくもう

笑顔輝く山形の子どもたちを』

—— 行動しよう 守り育てるPTAを目指して——

# 笑顔輝く

## 子どもたちのために

山形県PTA連合会会長 遠藤 正明



**日**頃より山形県PTA連合会の運営に対し深いご理解と温かいご支援をいただき、衷心より感謝申し上げます。本年度は「はぐくもう 笑顔輝く山形の子どもたちを」

「行動しよう 守り育てるPTAを 目指して」をスローガンとして、子どもたちを取り巻く課題の解決に向け、各郡市PTA・各単位PTAの皆様とともに力を注いで参りました。

今、「いじめ自殺や虐待」などあつてはならない、教育の根幹を揺るがす様な事が、現実として起こつ

ています。それは、子どもたちを守るべき大人が、その責任を果たしてない表れだと感じます。対岸の火事ではなく、我がこととして捉え子どもたちに関わる全ての人が、真剣に考える必要があります。また昨年「教育再生」のもと、先を見据えた教育の骨組みづくりと「いじめ等」に対する緊急の対応が検討されています。我々PTAは様々な施策が子どもたちのためになるように考え、課題の解決に向け行動していかなくてはなりません。

そこで、家庭・学校・地域社会の架け橋として、また地域の一員としてのPTAの役割が、ますます重要なものになってきております。教育の基盤は家庭にあります。家庭での育ちがあり学校での学びが成立し、地域の人々とのかわりの中で大きなびていきます。すなわち「家庭で育ち、学校で学び、地域でのびる」ように、子どもを守る大人が、しっかりと子どもたちを見守り育て

ていく事が大切です。

さて、本年の活動として初めに研修大会の開催についてご報告致します。

十月に、第五十八回山形県PTA研修大会西村山大会が、「家庭・学校・地域とのかかわりの中で育もう、いのち輝く子どもたちを」を大会主題として、県内各地より千余名のPTA会員の皆様のご参加をいただき開催されました。山形県教育委員会を始め西村山地区一市四町の教育委員会との共催を頂戴し開催できたことは、主催者として誠にうれしく関係各位に対し厚く御礼申し上げます。また、主管の西村山PTA連合会の皆様には、一年前からの準備に始まり、当日の運営に至るまでご尽力をいただき誠にありがとうございました。そして大会では、「組織運営」「研修活動」「健全育成」「家庭・地域と学校教育」「健康・安全教育」のテーマで五つの分科会が開催され、それぞれの参加型の分科会では活発な討議がなされ、課題解決に向け情報共有し、家庭の基盤となる家庭の教育力を高める研修が出来たものと確信しております。全体会での記念講演では、大江町教育委員会委員長の渡邊兵吾氏を招き「人イコール人・その関わりについて」の演題で、

参会者の心に響くご講演をいただきました。

十一月には、県教育委員会と県高等学校PTA連合会との合同教育委員会懇談会が開催され、小・中・高の子育て全てに共通した「子どもに見せたい背中」の絵（画集）というテーマをもとに、どんな背中を見せたいのか？どの様な方法で見せているのか？の視点で話し合いがなされました。そこでは、それぞれの家庭で様々な方法を取りながらも、大人として精一杯伝えていこうとする話を伺い、見せること伝えることの難しさや大切さを痛感し、次世代を担う教育は、時代の変化に呼応しながら将来を見据え継続的に進めていなくてはならないと感じたところです。

今後も山形県PTA連合会は、笑顔輝く子どもたちのために、社会の変化を敏感に感じとりながら課題の解決に向け考え、行動していきたいと考えております。

最後にご支援ご協力をいただいた、県教育委員会を始め関係各位の皆様に対し心から感謝申し上げます。



## 家庭の安定こそ教育の基盤



山形県連合小学校長会会長  
**洪 谷 光 夫**  
(山形四小校長)

**こ**ら！お客さんにお湯をかけるな！

先日ある露天風呂で、スキー帰りの親と小学生の兄弟が、樹氷の面白さやスキー技術の向上、友達等について会話が弾んでいました。そのうち兄弟が急にふざけ出し、他人に迷惑があった時、父親は即座に子どもを厳しく叱ったのです。父親の愛情と信頼に満ちた、家族の絆を感じる微笑ましい光景でした。

このように自分の子どもを人前で叱りつける場面は、ひと昔まで日本何処でも見られるものでした。昨今は、親子や兄弟など肉親をも巻き込む、信じられない凶悪な事件が続出しています。またネグレクトや給食費未払い等、親として「なぜ」と考え込むような事案が増

えています。世の中は、経済効率を優先し、一部の問題を学校と教員批判に向け、「教育再生」を最優先しています。「事実があるから報道があるのではない。報道があるから事実がある。」という、コラムニスト山本夏彦氏のマスコミ報道に関する警句を思い出します。

しかし、今日の教育の混迷は「教育」の制度や教育関係者の失態ばかりとは言えません。戦後六十年の日本の民主主義の流れと共に、中央と地方での生活実態のズレがあり過ぎているのでしょうか。教育再生を議論するには、教育の基盤である「社会再生」「地域・家庭復興」こそが鍵と考えるのは私だけでしょいか。

これまでの山形県の義務教育の実践やPTA活動は、確かな歩みであつたといえます。私は全国的な諸会合に参加する度に、本県の教育実践の質と教職員の授業力の高さを、益々強く実感しています。

今こそ、私たちPTA会員は教育の原点に立ち返らねばなりません。「家庭・学校・地域」で、各々での「躰け・学び・関わり」を再度吟味し、自分の子どもをまず自分の家庭から教え育てていきたいものです。家族愛・夫婦愛のある安定した家庭にこそ、子どもは「育つ」のです。

## 山形県PTA研修大会西村山大会を終えて



西村山大会実行委員長  
**佐 藤 俊 司**

**新**しい年を迎え、会員の皆様におかれましては、益々ご清祥の事とお慶び申し上げます。

さて、昨年十月に、母なる川・最上川の中流域にあたる西村山の地に千名を超える会員の皆様からお集まり頂きまして、第五十八回山形県PTA研修大会西村山大会が盛大に開催できたした事に心より感謝申し上げます。

この度、西村山郡一市四町での主管と言うことで、昨年度より実行委員会を立ち上げ各市町PTA連合会が協力して準備を進め、参加して頂いた会員の皆様に少しでも満足してもらえ大会にしようという努力をしてきました。

大会主題「家庭・学校・地域とのかかわりの中で育もう、いのち輝く子どもたちを」のもと、各分科会では活発な意見交換がなされたことと思います。

記念講演では、本地区の渡邊兵吾先生より、体験を踏まえた「人と人の関わり」についてご講演を頂き、参会の皆様には本大会の大会主題に係わる熱い話を聞くことができたのではないでしようか。

昨今、さまざまな事件が起こり、子どもたちを取り巻く環境が必ずしも良いとは言えない状況の中、保護者・地域ボランティアによる登下校の安全確保や子どもたちの居場所づくりなどの取り組みが進められています。これからも、家庭・学校・地域が共に手を携え、それぞれの役割を果たし「自分を愛し他人を愛する、いのち輝く子どもたち」の成長を支援していきましょう。

最後に、参会頂きましたPTA会員の皆様、ご来賓の皆様、開催にあたりご指導・ご支援頂きました皆様に深く感謝と御礼を申し上げます。ありがとうございました。



# 「子どもに見せたい背中(画集)」 ～子どもとの楽しい会話が子育てのキーポイント～

山形県教育委員会との合同教育懇談会報告

今年度で6回目を迎えた、県教育委員会(県教委)と県高等学校PTA連合会(県高P連)・県PTA連合会(県P連)との合同教育懇談会が平成18年11月15日(水)ホテルキャッスルにて、県教委から真木教育次長を初め9名、県高P連(仲野会長)より13名、県P連(遠藤会長)より18名、県PTA母親委員会(佐藤委員長)より7名、合わせて47名の出席により有意義に開催された。



あり過去を振り返り子どもに接し、正しい事と悪い事をはっきり教える事、また、家庭の中でも感謝

「日常生活のありのままの姿」については、親が社会との関わりの中で、一生懸命行動し働き、明るく前向きな考えで、目標に向かって日々努力する姿を見せ、父母が連携して生活する事が重要です。(疲れている時や叱る時等)家庭の事情で片親の場合は、父母の両方の役を演じる事が必要とされます。

★いのちの大切さ  
最近子どもたちの中で「生き返れる」と信じている子

★おわりに  
今回の議題は単位PTAに協力をお願いし、活動を推進して画集を発刊出来ることを願って終わりの言葉とします。  
文責・県PTA連合会理事 鈴木 聡

★話題提供  
今回のテーマである「子どもに見せたい背中(画集)」について、県高P連副会長の桑門哲也氏・県PTA母親委員会副委員長の深瀬匡巳氏、お二方より話題提供の発表を頂き懇談会が開催されました。

★親の背中、どんな背中？  
キーワードは、「自分の親の育て方が基本」・「日常生活のありのままの姿」・「こころを育てる」以上三点について意見交換の中を要約してご報告致します。

★コミュニケーション  
子どもに親の生き方や考え方を伝える方法としては、子どもと会話をして伝える事が殆どですが、話すにしても押し付けの話し方と話を聞き親として助言する話し方があり、全体的に前述の方が多くなっている様に感じており、子どもとの話し方については、後述の話し方が有効です。子どもに考えさせ自分の意見を引き出す事が重要です。また、地域の行事等に親子で参加し、同じ話題を共有する事も必要ですので実践して見て下さい。

★PTA・学校の協力  
真木教育次長様より「県として公に向けた施策を執る事は出来るが、それに多くのPTAが前向きに参加し、学校と協力して各家庭の中に伝えて頂きたい。」と感想を述べられました。仲野会長より「親も初めて、子どもも初めて、ゴールを目指して共に進むのが子育てである。」と、また、遠藤会長は「PTAは、一人でも多くの方に語り継いで行くことが重要である。」と、この懇談会を閉じました。

## 山形県PTA連合会 母親委員会の本年度の活動



県PTA母親委員長  
佐藤 静子

今年度、郡・市PTAとして単位PTAで母親委員として様々な活動を展開していただき、感謝申し上げます。

母親委員会は、子育て・家庭教育における親の本音や悩みを吸い上げ、課題として共有し、活動に結びつけるベストポジションにある組織であり、子育て・親育ちに貢献できると思っています。

山形県PTA母親委員会において今年度注目した観点は、生活リズムを見直すことです。「早寝・早起き・朝ごはん」の運動を受け、各地区での子どもの様子や委員会活動を通しての情報交換・意見交換をする中で、子どもの生活リズムの乱れは、結局親の問題であることが理解できました。基本的な生活習慣を「我が家レ

ベル」で見直す呼びかけが大切であり、単位PTAまで組織がつながっている母親委員会は、まさに、各家庭にその活動を広げることが出来る良い位置にあると思います。  
今後とも、母親の視点を生かしたアイディア溢れた活動を、母親委員会がリードして展開していただけると期待しています。  
今年一年、母親委員会活動に、ご理解とご支援をいただきました方々、関係諸機関の皆様にご感謝申し上げます。ありがとうございました。

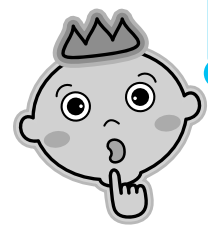
### 《活動報告》

- 第一回母親委員会 六月十二日
  - 正副委員長選出
  - 活動計画及び情報交換
- 第二回母親委員会 九月二十二日
  - 日本PTA研究大会、東北ブロック研究大会報告
  - 情報交換「子どもの生活習慣」
- 第三回母親委員会 十一月十五日
  - 「県母親委員会だより」作成案
  - 県PTA研修大会報告
  - 情報交換「子どもの生活習慣」
- 県教育委員会、県高等学校PTA連合会との合同教育懇談会参加
- 第四回母親委員会 平成十九年二月五日
  - 「県母親委員会だより」作成
  - 今年度反省と来年度に向けて

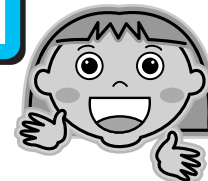
## 平成十八年度 各地区の活動

- 山形市 佐藤 静子
  - 活動のテーマ「命の尊さ大切さ」
  - 「声をかけ、時間をかけ、心をかよわせよう」
  - 年三回の委員会開催
  - 拡大母親委員会(研修会)開催
  - 「マザーズねっとわーく」発行
- 上山市 石山 文子
  - 年三回の委員会開催
  - 母親委員の研修会開催
- 天童・東村山 大山 和子
  - 年二回の地区母親委員会開催
  - 母親委員会だより発行
- 西村山 小林真公子
  - 年三回の委員会開催
  - 西村山PTA母親委員会だより発行
- 北村山 深瀬 匡美
  - 各市・町の特徴にあった活動を実践
  - ※地区全体での活動は行っていない。
- 最上 庄司 由加
  - 年三回の委員会開催
  - 地区母親委員会研修会開催
  - 地区母親委員会だより発行
- 米沢市 我妻真奈美
  - 年三回の委員会開催
- 情報交換の成果を受け、母親委員会の活動意義をアピールしていきたい。
- 東置賜 齋藤美加子
  - ※地区での組織化はないが、単Pの中で委員会の立ち上げがあり活動を行った。
- 西置賜 船山 広恵
  - 年三回の委員会開催
  - ※各市・町の活発な活動が報告された。
- 鶴岡市 若松 玲子
  - 年三回の委員会開催
  - ※合併後初めての委員会。各単Pでの委員会立ち上げと活発な活動を期待する。
- 東田川 佐藤 陽子
  - ※市町村合併により、手探り・摸索状態。地区としての活動はないが、各単Pでの活動あり、今後、情報交換の場を設けていきたい。
- 酒田市 櫻井 良子
  - 活動テーマ「いのち」
  - 年二回の代表母親委員会開催
  - ※酒田市PTA研修会への協力
- 飽海 後藤 淳子
  - ※家庭数減少に伴い、役員数の見直しを検討される中、各単位PTAにおける母親委員会の組織づくりは進んでいない。





# 県民運動『大人が変われば子どもも変わる』



## ～地域ぐるみ子ども育成活動への取り組み その7～

### けやきスクールガード

#### 上山市立南小学校PTA

本校は、児童数七百七十名の大規模校です。体力作りのさわやかマラソンや里芋栽培と全校芋煮会、また手作りのピオトープにはヒメダカ等が生息しており、子どもたちは豊かな環境の中で楽しく学んでいます。さて、本校においても、子どもたちの安全を守るために、PTAが中心となつて昨年の九月から活動を始めました。その一端を紹介いたします。

#### 一、立ち上げまでの経緯

以前より不審者騒動等が続き、『安全パトロール』の意見もあつて、慎重に検討を重ねてきましたが、地域の方々と市教育委員会のご協力もいただき、事業として立ち上げることにしました。ボランティアの公募や活動の曜日・時間・場所など、流動的に対応できる実施要綱を作成し、また、実施にあたっては、警察署等に協力を依頼しました。地区でのボランティア募集については、各地区会長に趣旨を説明し、理解と協力を

得るようにしました。回覧板による周知を進め、申込書を全戸に配布した結果、多くの地域の方々とPTA会員から協力をいただきました。

#### 二、活動を開始して

九月に発足式を行い、「抑止」と「啓発」を主なねらいとした活動を始めました。登下校時の通学路での立哨、散歩時間を活用した公園等の巡回や車等での巡回が主な活動です。

本校のシンボルとなつていけるけやきの若葉色のベストを着用し、ボランティアの方々の工夫等により、実質的な活動をしていきます。

#### 三、課題について

課題は、年数回の情報交換会のあり方、情報の共有・伝達方法など山積していますが、ボランティアの方々との協力と創意工夫でクリアしていきたいと思ひます。



### けやきスクールガード委員会の立ち上げ

#### 大石町立大石小学校PTA

#### 一、はじめに

本校は、最上川中流に開け、古くから最上川舟運で栄えた川港町の中心に位置する。全校児童百八十八名が、「あたたくく」「やわらかく」「つよく」のめあてのもと、元氣いっぱい活動している。

#### 二、子どもたちを取り巻く現状

○保護者の危機意識  
子どもに関わる事件の多発、お隣秋田県的事件、本校児童に隣接する不審者事件等の発生  
○学校・家庭の対応の限界  
学校：一階各入り口の施錠、下校時の編制、通学路の確認と集団下校、地域の巡回  
家庭：外出時の約束、塾等子どもの送迎の安全

#### 三、大小つ子スクールガード委員会の立ち上げ

※健全育成会で出された保護者の声がきっかけ  
○スクールガード委員会の主な活動  
① 年三回のスクールガード委員会の実施  
一回(発足) 二回(情報交換) 三回(まとめ)

#### ② 見守り隊の組織(ボランティアの募集)

・役割  
買い物、犬の散歩、畑仕事、ウォーキング等、自宅周辺で子どもを見守る。また、危険を察知したら、警察に知らせたり周囲の助けを求める等、できる範囲の協力をお願いする。  
・服装  
ボランティアの応募があつた

ら、名簿に登録し、見守り隊の帽子とホイッスルを配布する。

#### ③ 安全パトロールの実施

・年間七回三種類の基本コースを決め、各回に二コースを巡回する。  
(学校・PTA総務部・PTA校外生徒指導部で班を編制し、危険箇所のチェックと写真撮影を行う。その後、学校にもどり、事務局に概要について報告する。)  
・報告を受けてのパトロールだより発行  
(各パトロールごとにたよりを作成し、保護者向けに危険箇所を知らせる。内容により、町教育委員会にも要望書を作成し、PTA会長と校長が出向き提出している。)

#### ④ 安全マップの作成

・PTA校外生徒指導部員の各地区の危険箇所点検報告、スクールガード委員会の安全パトロールでの点検報告、校内下校パトロール点検報告を加味して作成。  
ただし、記載内容は極力絞り、個々の家庭で自分の通学路を話題にしたらうことを最大の目的とした。また、使用目的に責任を持ってもらうことを前提に、マップの学区内全戸配布とした。

#### 四、おわりに

。早急な立ち上げであったが、関係諸機関や地区民ともスクールガード委員会のような活動の必要性を感じている時期だったので、スムーズに進めることができた。  
。スクールガード委員会の活動を進める程に、地域の温かい声援を受け、子どもたちは地域の人を支えられていることを実感した。

### 全員参加のPTA活動

#### 川西町立東沢小学校PTA

本校は、川西町の南部に位置し、ハッチョウトンボやヒメフチョウが生息する、自然に恵まれた地域にある。

本校の特徴の一つは、東京町田市から山村留学生を受け入れていることで、十六年目を迎えた。

今年度は、留学生三名を含めた児童三十一名、PTA会員二十二名で、『集おう・つなごう・PTA』というテーマの元、保護者全員が学年部・文化部のいずれかに所属し、活動を展開している。

#### 【特徴的な事業・活動】

#### ◆地域と連携した各種行事への参加・協力

本校は、地域との結びつきが強く、「運動会」や「学芸会」は、地域の「体育祭」や「収穫感謝祭」と合同開催をしている。保護者は、全員で分担し、環境整備や行事の準備に協力している。また、保護者が積極的に行事へ参加することを通して、子どもたちの成長を見守っている。

### ◆全員参加の学校保健委員会

子どもたちの実態をより詳しく知り、学校と連携して健全育成に取り組むと、保護者全員が参加をしている。

生活リズムや体力向上に向けた話し合いがなされた。

#### ◆「母親の集い」の開催

母親同士の交流機会が少なくなる中、子育てに対する話題を交流することにより、不安や悩みを解決しようと、昨年度から開催。相互に語り合うことで、母親同士の連携が深まると共に、いい意味での刺激にもなっている。

今後は、家庭での読み聞かせの仕方や、楽しい研修も企画しようとして検討している。

#### ◆地域と連携した研修活動

PTAの研修と地域の「教育講演会」を合同開催。家庭・学校・地域が一体となつた子どもの育成を目指している。

#### 【中学校区各校との連携】

年に一度、第一中学校区五校のPTA役員が集い、各校の活動状況や子どもたちの健全育成に向けた話題を中心に交流をしており、連携を深めている。

### 地域と共に育つ中学校へ

#### 鶴岡市立第五中学校PTA

今年度、創立十周年を迎えた本校は庄内平野の南に位置し北に鳥海山、南に月山を望み豊かな自然に恵まれた環境の中にある中学校です。生徒数は四百四十一名、四つの小学校を卒業した子どもたちが仲良く平和に日々学んでいます。

#### 一、「あいつの運動」

我が校はまだ歴史の浅い中学校です。「伝説」という型に左右されることなく、生徒会活動や部活動でも十分自分たちのカラーを出しきって活動しております。生徒一人一人が「創造」しその後に「新しい伝説」が築かれている様です。

そして、今年度生徒会で重点的に取り組んでいる「あいつ日本一」もその一環です。PTAも協力し、「あいつの輪」を地域にも広げていこうという気持ちで、生徒と一緒に元気に活動しています！

### 二、「除雪ボランティア」

平成十七年度の冬は記録的な「豪雪」となりました。そんな中、生徒たちが「除雪ボランティア」として地域に飛び出し活躍しました。

その中味は降雪時自力で除雪作業が出来ない高齢者の一人暮らし世帯や高齢者だけの世帯を中心を生徒たちが地域の人たちと一緒に除雪作業にあたるという事でした。

この事は、中学生の地域活動への参加と推進を促し、作業を通じて地域住民との交流を図りながら、高齢者への理解を深めることを目的とし、更には、自分たちの体力向上と新生中学校の「新しい伝説」を築いていく大変素晴らしい活動になっています。

地域の子どもは地域で育てる。この言葉にピッタリの「除雪ボランティア」が今後も末長く続く事を望んで止みません。

そして、これからも地域とPTAが共に協力し合いこのような活動を展開して行きたいと思ひます。



# 『学ぶPTAから実践するPTAをめざして』 学校・家庭・地域の連携を通して

鶴岡市立三瀬小学校PTA会長 白幡勝由

## 一、はじめに

三瀬地区は、鶴岡市の南西部に位置し、一面が海で三面が山に囲まれている。戸数約五百二戸、児童数は現在百二名、実家庭は七十二戸である。また、PTA会員は八十三名、賛助会員は三百四十九名である。

この地域の生涯学習に関する関心は高く、地域コミュニティセンターを中核にした講座などに参加する人も多く、学校教育やPTA活動に対しての期待も大きい。

このたびの栄誉は、当PTAに対する、地域・学校・保護者や、関係諸機関・団体のご協力とご支援のお陰と深く感謝したい。

## 二、特色ある実践

(一) 地域と一緒に取り組む『三瀬つ子四つの運動』

この運動は、今年で五年目を迎え、学校と地域・家庭の双方で取り組んでいる。内容は、地域で大切にしている、あいさつ、ちょボラ（ちよっとしたボランティア）、外遊び、読書の四つであり、この中から、家庭・地域で重点的に取り組む事項を、各学年PTAで話し合って学年ごとに決定している。

評価については、学校と家庭の両方の評価を取り入れ、年度末にいっしょに集計し、全会員に報告している。その結果をもとに、次年度の課題を設定している。

【平成十八年度の各学年の重点取り組み事項】  
一年『あいさつを自分から言えるようにしよう。』  
二年『いろいろな本に親しもう。』

三年『自分のことは自分でしっかりしよう。』  
四年『読書をしよう。』  
五年『あいさつのできる子になろう。』  
六年『家族の一員として家の仕事をしよう。』

(二) 地域の先生を招いての各種教室の開催

学校週五日制実施に伴い子どもたちの受け皿の一つとして、また、地域の方との交流や地域の自然に親しむ活動として、地域の身近な先生を招いての各種教室を、PTAが主催して実施している。

内容については、PTAの諸会合での意見を取り入れるとともに、社会教育関係機関・団体との連携を視野に入れて決定している。

各教室の運営は、PTAの役員が分担し、今年度は、

『ネイチャーゲーム』『お話し会』『パソコン教室』『料理教室』の四回実施する予定である。

(三) 地域との連携による子どもたちの安全確保

① 「三瀬みまもり隊」の設置

平成十七年八月、子どもたちの健全育成と安全確保を目的として、「三瀬みまもり隊」が結成され、朝夕のあいさつ運動やみまもりの活動を熱心に行っている。

② 同じ中学校区の各単位PTAの連携による防犯看板の設置

当PTAを含む同じ中学校区（豊浦地区）にある一つの中学校と三つの小学校のPTAが、費用を出し合って、防犯看板を地区内に設置した。

③ 子ども安全メール配信システムの導入  
児童の安全確保のための新たな方策として、NPO法人と連携し、「子ども安全メール配信システム」を平成十八年度に導入し、学校に入った警察や教育委員会からの不審者情報を、いち早く連絡して

いる。

## 三、おわりに

今まで、学ぶ（研修する）PTAを実践してきたが、それに加え、前記のようなPTA自らが積極的に実践する（主催する）場面も増えてきていることは、歴代PTA会員の努力の結果といえる。PTAとしての課題も、時代の流れとともに絶えず変化している。今後とも活動を充実していくために、PTAとしての目標や重点をしっかりと意識し、『地域のPTA』として活動していくことが大切と考える。



単位PTAの連携による防犯看板の設置

## 一、はじめに

私たちの米沢市立南原中学校は、山形県で最も南にある中学校である。西吾妻の白馬の騎士を眺め、豊かな自然に囲まれた恵まれた環境のもと、全国でも珍しい木造平屋建ての校舎で百六十名の生徒が中学校生活を送っている。

本年度は、創立五十周年を迎え、PTAの新旧役員を中心に実行委員会を組織し、盛大に創立記念式典を行った。

折りしも、こうした記念の年に、このように素晴らしい表彰を受賞出来たことは、歴代会長をはじめ、活動を支援くださった地域・学校・保護者の皆様のお陰と心より感謝申し上げます。

## 二、PTAの基本方針

(一) 本会活動の充実を図るため会員相互の連帯性を高める活動をする。  
(二) 本校教育の振興に努め、

生徒の健全育成を目指す。

(三) 専門部会・母親委員会・学年委員会と協調し、地域一体となった活動を推進する。

以上を三本柱とし、PTA活動を推進している。

## 三、PTAの組織と活動

### ① 研修部

毎年、研修旅行や講演会・講習会を企画し実施している。今年度は、「命の大切さを教える」という学校方針に基づき「地球のステージ」を親子で観賞した。

研修旅行には、役員や保護者だけでなく、地域の方や小中学生も多数参加している。

### ② 育成部

「南原中学校区安全マップ」の作成と、登下校の立哨活動を行っている。  
中学校だけでなく、中学校区の小学校と連携し、「南原中学校区児童・生徒安全育成

連絡会」を発足。「こども一〇番」の家庭への協力や情報提供のお願いなど、地域と連携して活動し、立哨活動へも地域の方が参加して下さっている。

### ③ 広報部

年四回、PTA広報誌「こぶし」を発行している。

内容は、生徒の活躍の様子やPTAの活動、広報部企画の特集などを盛り込んでいる。地域全戸に配布され地域と学校を結び役割を担っている。

### ④ 母親委員会

制服リサイクルや母親委員会の会報「ひまわりかあちゃん」の発行などを行っている。制服リサイクルは、参観日など決まった時に販売しているが、いつでも買える仕組み作りをし活用されている。

「ひまわりかあちゃん」は十年以上の実績を持ち、手書きによる温かみのある、母親

ならではの愛情が込められた内容となっている。

### ⑤ 学年委員会

学年委員会は、学年親子行事の開催や、親同士、先生方との親睦を図る懇親会などの実施を主な活動とする。

学年行事では、学年の特色を生かした、レクリエーションや、研修などを親子で一緒にを行っている。

## 四、南原の特色

本校のPTAの特色の一つは、学区の全戸が会員であり、地域を巻き込んだの活動・地域の小学校と連携した活動を行っていることである。

二つ目は、積極的に外部講師を招いたり、外部機関との連携を図ったりして活動していること、そして、学校教育方針に沿って、命の大切さや生徒の人間関係づくりに資する活動を行っていることが挙げられる。

こうした活動により、地域の方の理解と協力をいただき、「地域の子どもは地域で育てる」という昔ながらの良き伝統が今も受け継がれている。

## 五、成果と今後の方向性

本PTAは、地域に根付いた活動を通し、生徒、保護者ともに地域の一員として、地区の行事にも積極的に取り組み活動を行っている。

今後は、学区再編や子どもの減少により、今まで同様の活動が厳しい時代になりつつある。PTA組織の見直しを図りながら、PTA活動が縮小されたりすることが無いよう、少ない予算でも今まで以上に魅力ある活動を維持できよう、次世代の役員育成も視野に入れた活動したいと考えている。



# 明るく楽しい学校つくりとPTA活動

米沢市立南原中学校父母と教師の会 鈴木京子



本校PTAは、今回、平成十八年十一月十七日、東京ホテルニューオータニで開催された表彰式において、大変名誉のある日本PTA全国協議会会長表彰を受賞いたしました。

受賞にあたり、推薦していただいた関係各位に謝意を表しますとともに、本校とPTA活動の取り組みを紹介し、受賞のお礼とさせていただきます。

本校は、朝日連峰に源を発し月山の万年雪を集めた寒河江川の中流左岸に位置し、三山信仰のお行様が通った六十里街道につながる道が東西に通じ、平地が多いとは言えない中山間地に在ります。春には、本校のシンボルであるしばざくらが校舎前面を彩り、その薄紫色と桜の花の織り成す景色は私たちを楽しませてくれます。

本校PTAの組織は、研修部、保体部、子ども育成委員会、母親委員会で構成されています。各部の具体的な活動を紹介します。

研修部では、毎年会員研修

会を開催し、年三回PTAだよりを発行しています。

保体部では、睦合区・公民館と連携し、区民運動会、区民雪上運動会を実施し、子どもの健全育成・区民相互の融和に努めています。

特筆すべき活動は、今年六十七回を数える伝統ある相撲大会の運営についてです。梵天製作のための竹堀り、土俵

母親委員会は、保健委員会と兼任しており、「いのち」に関わる課題解決のため、会員の啓蒙や会員相互の交流を活発に行っています。さらに、研修部と共催で講演会を実施し、性教育や有害情報への対応など現代的課題へ取り組み、感想文集を作成し配布を行っています。

地区選出委員や子ども育成

い、区・公民館と連携した『しばざくら復活プロジェクト』では、学校だけに留まらず、地域全体の環境整備の取り組みも行っています。

また、「睦合フォーラム」では、睦合地区の自然やよりよい環境を守る子どもたちの実践報告を行い、睦合を愛する心を地域住民と共有し、地域の活性化に結びついている

## 日本PTA全国協議会長表彰

# 地域と連携した活性化のシンボルである小学校

西川町立睦合小学校父母と教師の会会長 設楽良平

作りのための土堀り作業や俵まるき、俵の設置、土俵の仕上げを行い、六月の大会当日には、毎年立派な土俵を仕上げ、子どもたちの真剣な相撲を披露しています。

子ども育成委員会は、各地区の危険箇所や危険な遊びのないよう見守り、「子どもの安全は地域・家庭で守る」を実践しています。

委員会を中心として、省エネルギー教育・環境教育を推進する取り組みを行っていて、子どもの標語を立看板として作成し、各地区に設置し、積極的な省エネを発信しています。また、年二回資源回収を行っているところです。

環境整備への取り組みも積極的に進んでおり、会員全員での野外実習園の下刈りを行

ところ です。

本校PTAは、学校だけに限定した活動を行うのではなく、公民館や地区と連携した重層的な活動によって、地域活性化についても寄与していると自負しています。

子どもたちを取り巻く社会環境は、自分たちが育った頃から変化し、ますます多様化しています。その変化は便利



な変化であるばかりでなく、危険な変化であったりもします。変化を止めることができないとしても、予知できる危険をその環境から排除し、子どもたちによりよい環境を提供するのが私たちの責務であると思います。それは個々の考えを多勢の人と共有することによって可能になるものと思います、課題について話合うことが重要だと考えます。

PTAが、今後も地域と連携し、積極的に活動すること

平成十八年十一月十七日に

東京のホテルニューオータニにおきまして、酒田市立第五中学校PTAが日本PTA年次表彰式で「日本PTA全国協議会長表彰」を賜りました。山形県内の小・中学校数から推察すれば、百年に一度あるかないかの素晴らしい表彰を受けたと思っております。

本校は創立四十五年を迎えますが、歴代PTA先輩方より受け継いできた地道な活動が評価されたものと、現PTA会員並びに教職員共々大変喜んでおります。又、地域の皆様方の御理解と御協力や、関係諸機関の御指導に深く感謝いたします。

本校は酒田市の北西部に位置し、海岸線に沿った美しい緑の丘陵「万里の松原」の東すそに建つ、全校で九学級、二百六十六名の小規模校であります。学区の北東部には砂丘を利用した畑と庄内平野の一端としての水田が広がり、また、日向川を利用した鮭の孵化事業が行われるなど、自然環境に溶け込んだ昔ながらの田園地帯になっています。

しかし、少し南に下ると、

酒田駅の裏手から北に延びた住宅地や商店街が広がり、新しい町ができあがっています。ここにはコンビニや大型パチンコ店、スーパー、飲食店が連なり、現代的な町並です。

新と旧が接する学区であるため、出身小学校区によって生徒の気質にも若干の違いはありますが、全体的には純朴

危険マップ」作りを生活部が

中心になってすすめています。子どもの視線に立つて地域内を歩き、不審者、交通、地形のあらゆる面から危険箇所を列挙してカラー版のマップにして全家庭に配布しました。また、学校の玄関口に特大の掲示板を掲げ生徒に注意を喚起しています。マップは継続的に見直し、改訂版を発行し

ます。行事参観を兼ねながら、

子どもの活動に父母なりの協力で加わり、学校を支援し盛り上げるPTA活動になっています。

そして、「地域の子どもたちの健やかな成長を願って」を共通のテーマに、小学校と合同の地区懇談会を六月下旬から七月上旬にかけ、学区内十六地区で開催しています。

## 日本PTA全国協議会長表彰

# 地域と学校を結ぶPTA活動

酒田市立第五中学校PTA会長 小野修

で労を厭わない子が多く、保護者も地域も学校に対して協力的な地区であります。

つづきまして、本校の特徴的な活動を紹介いたします。

交通量の多い国道七号線、狭い道幅の旧国道、山林を抜ける人気がない通学路、それに海あり川ありの危険箇所を多くもつ学区である為、具体的な危険を説明する「五中学区

ています。そして、今年から地域の方々の御協力により、中学校版の「子ども一一〇番」を始めました。

また、「万里の松原」を活用した学校行事として、森林の中を駆けめぐる耐久レースが年三回あり、母親委員会のユニークな活動として、この耐久レースにおける麦茶サー

会合の日取りや具体的なテーマは、各自治会長が地区のPTA世話人と相談して決めています。当日は中学校の教員だけでなく小学校の教員も加わり、小中の保護者、地域の関係者と共に懇談しております。そこで話された問題は、文化部の広報紙「まっぼつくり」にのせ、各関係機関への要望書として提出しています。

今回の受賞を契機にこれまで以上に、子どもたちの健やかな成長を願うのは言うまでもなく、PTA活動を通して家庭・地域・学校と連携しながら、子どもたちの周囲の環境を良くするにはどうしたら良いのか、皆で今一度考えたいと思います。



この様にPTAの構成人数が多くないため、活動が手広くならないよう実のある実践活動を目指し、諸会合も多くならないように運営しています。

今回の受賞を契機にこれまで以上に、子どもたちの健やかな成長を願うのは言うまでもなく、PTA活動を通して家庭・地域・学校と連携しながら、子どもたちの周囲の環境を良くするにはどうしたら良いのか、皆で今一度考えたいと思います。



# 栄えある表彰 おめでとうございます

今年度、県PTAや郡・市PTA、単位PTAにご尽力なされ、多大のご功績をあげられた団体・個人の方々に感謝状や表彰状が贈られましたのでご紹介いたします。

(敬称省略)

## 優良PTA文部科学大臣賞

鶴岡市立三瀬小学校PTA  
米沢市立南原中学校父母と教師の会

## 日本PTA全国協議会会長表彰

### ◇団体

西川町立睦合小学校父母と教師の会  
酒田市立第五中学校PTA

### ◇個人

大 類 誠 一 (前県P連副会長)  
渋 谷 昭 儀 (前県P連副会長)  
佐 藤 静 子 (県母親委員長)  
高 橋 邦 孝 (前県P連事務局員)

## 東北PTA連絡協議会会長表彰

### ☆表彰状

### ◇個人

三 浦 豊 (前県P連理事：上山市)  
武 田 真 也 (前県P連理事：天童・東村山)  
本 田 祐 次 (前県P連理事：米沢市)  
山 口 良 一 (前県P連理事：東置賜)  
山 口 良 浩 (前県P連理事：西置賜)  
阿 部 喜美男 (前県P連理事：鶴岡市)  
石 川 安 彦 (前県P連理事：東田川)  
野 尻 善 喜 (前県P連理事：西田川)  
牧 秀 樹 (前県P連理事：酒田市)  
佐 藤 徳 康 (前県P連理事：飽 海)

### ◇団体

大石田町立大石田第一中学校PTA  
真室川町立真室川中学校父母と教師の会

## 優良PTA県教育委員会表彰

山形市立蔵王第一小学校PTA  
西川町立睦合小学校父母と教師の会  
山形市立金井中学校PTA  
尾花沢市立寺内小学校PTA  
最上町立満沢小学校教育振興会  
米沢市立南原中学校父母と教師の会  
飯豊町立添川小学校PTA  
鶴岡市立三瀬小学校PTA  
酒田市立第五小学校PTA

## 県PTA連合会会長表彰

### ☆感謝状 (県P役員退任者)

逸 見 良 昭 (前県P連会長：山形市)  
大 類 誠 一 (前県P連副会長：北村山)  
渋 谷 昭 儀 (前県P連副会長：西村山)  
三 浦 豊 (前県P連理事：上山市)  
武 田 真 也 (前県P連理事：天童・東村山)  
本 田 祐 次 (前県P連理事：米沢市)  
山 口 良 一 (前県P連理事：東置賜)  
山 口 良 浩 (前県P連理事：西置賜)  
阿 部 喜美男 (前県P連理事：鶴岡市)  
石 川 安 彦 (前県P連理事：東田川)  
野 尻 善 喜 (前県P連理事：西田川)  
牧 秀 樹 (前県P連理事：酒田市)  
佐 藤 徳 康 (前県P連理事：飽 海)  
鈴 木 義 明 (前県P連監事：天童・東村山)  
高 橋 邦 孝 (前県P連事務局員)

### ☆表彰状 (郡・市Pより推薦)

後 藤 修 (前山形市P連)  
山 本 丈 実 (前山形市P連)  
沼 沢 靖 (前山形市P連)  
戸 田 雅 大 (前山形市P連)  
金 澤 和 子 (前山形市P連)  
村 山 利 一 (前天童・東村山P連)  
鈴 木 義 明 (前天童・東村山P連)  
井 上 由香里 (前天童・東村山P連)  
山 尾 順 紀 (前最上地区P協)  
鈴 木 聡 (前最上地区P協)  
佐 藤 浩 之 (前鶴岡市P連)  
田 中 俊 彦 (前鶴岡市P連)  
村 田 勝 利 (酒田市P連)

## 2006たのしい子育て全国キャンペーン 第7回「家庭の風景～三行詩と写真コンクール」

### 〈小学生の部〉

### ☆文部科学大臣賞 (三行詩の部)

土 田 寧 々 (陸合小学校1年)

### 〈一般の部〉

### ☆読売新聞社賞 (三行詩の部)

石 井 てつみ (酒田市)

### ☆読売新聞社賞 (写真の部)

高 橋 浩 幸 (日新小学校教諭)

## シンジラレナイ宮崎大会

八月二十六日二十七日の大会へ前泊しての参加となりました。二十五日夕方宮崎空港へ到着、空気が香るのも風も違う。さすが南国、これからの三日間が楽しみです。夕食時宮崎の郷土料理と焼酎で、PTA全国大会についてまた日頃のPTA活動に



米沢市PTA連合会会長  
嶋 津 芳 美

## みやざき大会に参加して



ついで一緒に行った山形県の役員の皆さんと熱く語り合い、夜が更けるのも忘れたのでした……。いよいよ大会当日、私は第二分科会へ参加、千名を超える会場で真ん中にしっかりと陣取り準備万全です。分科会は石井十次という方の生涯を描いた映画から始まりました。社会全体が貧しく福祉という考えもない時代に孤児院を設立、子どもたちの教育に尽くした方です。厳しさの中に大きな愛情、いつの時代にも不変の大切な事です。続くディスカッションでは子どもたちの自立のために家庭教育の重要性、親も子も育ち合い生きていく力を育む家庭をサポートできるPTA活動について考えました。

翌日全体会、夜廻り先生で知られる水谷修氏の講演が予定され個人的にも大変楽しみにしていましたが、事務局より今日の講演はできなくなりましたとのこと。続いてご本人が失礼しますと帰ってしまいびっくり。会場の五千人の人は騒然です。不都合があった様ですが信ジラレナイイ。がっかりしてしまいました。

その後一路山形へのはずが飛行機の故障で結局欠航となりまた一泊、明日は仕事なのに信ジラレナイイ。しかし、二つのトラブルを話題により強く親交を深めた私たちでした。

## PTAみやざき大会見聞記



酒田市PTA連合会会長  
齋 藤 義 明

県PTA理事会の新しい仲間たちと、平成十八年八月二十六日から二十七日まで開催される、日本PTA全国研究大会へ初参加をさせていただきました。

出発の前日まで、不安と楽しみが交差する中、新しい仲間との集合場所、仙台空港で、地元の酒を囲んで出陣式が行われました。目的地の宮崎に到着するまで出陣式は続き、宮崎に着くまでには、旧知の仲になりました。当日の食事で、本場の焼酎で長旅の疲れを労い、明日へ備えました。

私は、第四分科会(広報活動)へ参加しました。その中で、酒田市立松原小学校(まつばら)、酒田市立第三中学校(山河)が、同時に社団法人日本PTA全国協議会会長賞を受賞しました。これは我々の活動が全国的に認められた事であり、たいへん嬉しく又誇りに、感じております。



第2分科会コーディネーター  
前山形県P連会長(日P前副会長) 逸見良昭氏

分科会の内容は、串間市広報紙編集で活躍されている諏訪園達夫氏の基調講演で始まり、実践発表校の二校の事例発表がなされました。その中で、広報活動の意義を如何に捉えた実践に移す事の重要性を問われました。地域を問わず問題の本質は同じであると感じました。

大会以降も、子どものいじめ、自殺等が報道される中、人間として真のやさしさが問われる昨今、PTA活動の重要性を再認識させてくれた研究大会であり記憶に強烈に残るみやざき大会になりました。

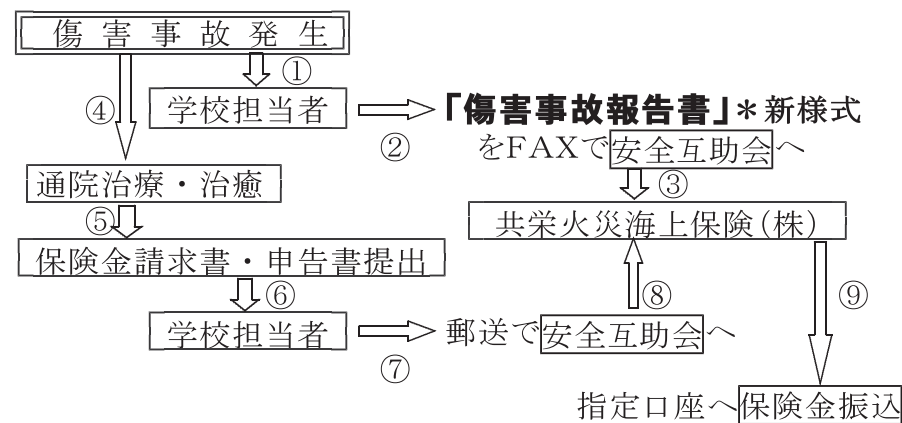


## 安全互助会からのお知らせ

山形県PTA安全互助会は、平成19年4月1日から自主運営を解散し、共栄火災海上保険(株)に委託されます。補償内容・会費金額・加入手続きにほとんど変更はありません。

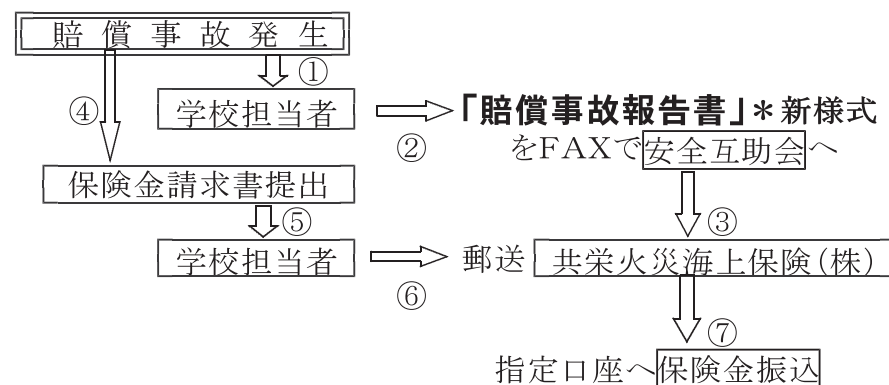
山形県PTA安全互助会事業は山形県PTA連合会の常置委員会が引き継ぐことになります。今後とも、ご指導ご協力をよろしくお願い申し上げます。

### \*\*平成19年4月1日以降の受傷の請求手続きについて\*\* 直ちにFAXで「傷害事故報告書」を



平成18年度の受傷の請求は、平成19年度になってからでも、今まで通り旧用紙で請求して下さい。

### 直ちにFAXで「賠償事故報告書」を



◎ 詳しい請求手続きについては、新しい「事務取扱概要」(平成19年度版)が各学校に配布されますのでご確認ください。

#### 〔事務手続き問い合わせ先〕

山形県PTA連合会安全互助会  
〒990-0041  
山形市緑町1-9-30  
山形県新築西通り会館内  
TEL 023-631-0055  
FAX 023-635-4359

#### 〔引き受け保険会社〕

共栄火災海上保険(株)  
〒990-0039  
山形市香澄町2-11-13  
南東北支店 山形支社  
TEL 023-622-2827  
FAX 023-624-0219

## 日中友好少年少女の翼に参加して

### 中国という国との出会い

村山市立葉山中学校  
三年 井澤 貢

私が今回、「日中友好少年少女の翼」に参加して感じたことは、「人と人との絆」です。初日は「こんな人見知りの私に友達ができるのだろうか」と心配でした。しかし、全国から集まった仲間はとても明るく活発な人ばかりで、すぐ親しくなることができました。中国の中学生と交流をしたときも相手の方からいろいろと話しかけてくれたりして打ち解けることができました。

驚いたのは中国の学生の英語力です。私の想像をはるかに超えていて、ついでいくのがやっとでした。私も英語は得意のつもりだったけれど、まだまだ勉強が足りないと思います。知らされました。もっと英語力があれば、中国の学生のように積極的に活動や交流ができたと思います。

中国での見学先はとても興味深い所ばかりでした。その中で特に「少年宮」(習い事をする所が集まったような

所)と北京の町並に驚かされました。「少年宮」では中国の未来を担う若い力と熱意を肌で感じ、北京の町並は私の「中国は発展途上国」という考えを想定から覆すものでした。

以前私は中国人という民族にあまり好意的な感情は持っていませんでした。テレビで中国での反日デモのような活動を目にしていたからです。しかし、この「少年少女の翼」に参加してそんな考えはどこかに吹き飛んでしまいました。それはきっと中国という国を、中国人という人を知ることができたからだだと思います。思えば以前は中国という国をあまりにも知りませんでした。たぶん反日デモなどを起こす人達もそうなんだと思います。日本という国を、日本人という人を知らないから反日デモのようなことをするのだと思います。これから日本は世界の人々に特にアジアの人々に日本を理解してもらわなければなりません。日本を、私達日本人を理解してもらえれば反日の感情はなくなるはずだと思います。私の心がそうだったように……。

### 違いを認め合おう

村山市立楯岡中学校  
三年 大類 瑞穂

この日中友好「少年少女の翼」は、私にたくさんの出会いと体験、そして感動を与えてくれました。

最初は会ったことのない全国の中学生達と外国に行くという事で、「どんな人達が来るんだろう」という期待と「仲良くなれるかなあ」という不安が入り交じった複雑な心境でした。しかし、みんな良い人達ばかりだったのでそんな心配はいりませんでした。

また、中国の中学生とも交流することができました。中国の中学生が英語をペラペラしゃべっているのを見て、英語はやはり世界の共通語だということを思い知らされました。私は「もっと中国の子と話をしたい」と思いましたが自分の気持ちを上手く英語で表現できず、くやしい思いをしました。だから私は英語を積極的に学んで、いろんな人に自分の考えを知ってもらえるようにします。

中国へ来て驚いたことはたくさんありますが、その中でも「中国のスケールの大きさ」には驚かされました。万里の長城は、終わりがどこなのかわからない程長く、壮大でした。一つのを何十年、何百年もかけてつくる、ゆつたりとした時間の感覚は日本と中国の文化や考え方の違いの一つだと思います。「ああ、やっぱりここは外国なんだなあ」と感じました。

残念なことには、日本と中国の仲はあまり良いとは言えません。国が違うのですから文化や考え方が異なるのは当たり前です。だからこそ、その違いを認め合い、協力していく必要があるのではないのでしょうか。私は、お互いの違いを認め合うことができる世界になってほしい、また私自身がそういう人間でありたいと願っています。

この旅で学んだこと、経験を忘れずこれから生かしていこうと思います。

この旅を企画して下さいました日本PTAの皆さん、本当にありがとうございました。



# 「つなごう！明日の山形、そして未来の子どもたちへ」

～第59回山形県PTA研修大会東置賜大会～



東置賜大会準備委員長

奥山 雅広

皆さん、家庭・学校・地域と日頃どのように「かわり」をもっているのでしょうか。また、かけがえない「いのち」の尊さといかに向き合っているでしょうか。

最近のあるデータによりますと、小中学生の三割にあたる子どもたちが人間は死んでもまた「生き返る」と考えているそうです。とても驚かされる反面、やはりと思う気持ちもあります。

本年、来る十月二十日（土）「まほろばの里」高畠町を会場に「かわりの中で育もう、いのち輝く子どもたち」を大会主題に掲げ第五十九回山形県PTA研修大会東置賜大会が開催されます。私たち、南陽・高畠・川西の一市二町により組織される大会実行委員会

では、大会の主軸でもあるかわり合いを大切にお互いの連携を深めながら、より充実した研修大会になりますよう準備を進めているところです。

さて、今の子どもたちは私たち親の世代が、かつて過ごした古き良き昭和の時代とは全く比較できない社会環境の中に埋もれてしまっているようではありません。パソコン・ケイタイ等の急速な蔓延により、人々との「かわり」がとも苦手な子、考える力やコミュニケーション力が極端に未熟な子、そして何より深刻なのは「いのち」の尊さ、重さに対する意識が驚愕する程までに低下している実態であります。今こそ、子をもつ一人の親という立場だけではなく明日の山形のためにも大いに語り合う時ではないでしょうか。

自分自身の足跡を振り返り、人間にとつてその生き方を煎じ詰めれば、やはり「かわり」そして「いのち」に尽きると言っても過言ではありません。それは、どんな時代になろうとも、普遍的な「キーワード」であると確信しております。それぞれの思いを胸に十月まで温め、実りある収穫の多い秋になりますよう心より念じ、県内各地より皆さんをお待ち申し上げます。

## 平成18年度山形県PTA連合会役員名及び事務局員名

| 役職  | 氏名    | 所属地区PTA        | 所属PTA | 役職   | 氏名    | 所属地区PTA      | 所属PTA |
|-----|-------|----------------|-------|------|-------|--------------|-------|
| 会長  | 遠藤 正明 | 山形市PTA連合会      | 山寺小・中 | 理事   | 齋藤 義明 | 酒田市PTA連合会    | 酒田二中  |
| 副会長 | 武田 岳彦 | 山形市PTA連合会      | 山形五中  | 〃    | 前田 公平 | 飽海郡遊佐町PTA連合会 | 遊佐中   |
| 〃   | 佐藤 俊司 | 西村山PTA連合会      | 陵東中   | 〃    | 佐竹 恵一 | 県小学校教職員代表    | 山形八小  |
| 〃   | 高橋 欣也 | 最上地区PTA協議会     | 新庄小   | 〃    | 佐藤 嘉一 | 県中学校教職員代表    | 米沢一中  |
| 〃   | 奥山 雅広 | 東置賜地区PTA協議会    | 大塚小   | 〃    | 佐藤 静子 | 山形市PTA連合会    | 山形五中  |
| 理事  | 安孫子剛宏 | 上市市PTA連合協議会    | 上山小   | 〃    | 深瀬 匡巳 | 北村山PTA連合会    | 楯岡中   |
| 〃   | 鈴木 聡  | 天童・東村山地区PTA連合会 | 天童二中  | 監事   | 高橋 和典 | 山形市PTA連合会    | 山大附属小 |
| 〃   | 高梨 光永 | 北村山PTA連合会      | 楯岡中   | 〃    | 宮地 真司 | 西村山PTA連合会    | 河北中   |
| 〃   | 嶋津 芳美 | 米沢市PTA連合会      | 窪田小   | 〃    | 大沼 篤  | 山形市PTA連合会    | 山形東小  |
| 〃   | 二瓶 幸浩 | 西置賜地区PTA連絡協議会  | 飯豊二小  | 事務局長 | 佐藤 恂一 | 山形県PTA連合会    |       |
| 〃   | 石塚 治己 | 鶴岡市PTA連合会      | 豊浦中   | 事務局員 | 佐藤 洋子 | 〃            |       |
| 〃   | 田桑 秀  | 東田川郡PTA連合会     | 余目中   | 〃    | 熊谷 慶子 | 〃            |       |

おしらせ



### 来年度の主な行事予定

- ◆日本PTA広報紙コンクール 応募締切 4月27日（金）まで
- ◆各・郡市より諸報告提出締切 6月1日（金）まで
- ◆第一回県PTA理事会議 6月14日（木）10時30分～
- ◆平成十九年度PTA総会 6月22日（金）13時30分～
- ◆日P全国研究大会滋賀びわこ大会 8月24日（金）～25日（土）
- ◆東北ブロック研究大会仙台大会 9月7日（金）～8日（土）
- ◆第五十九回県PTA研修大会 東置賜大会 10月20日（土）9時45分～
- ◆県教委と高校P連との合同教育懇談会 11月14日（水）予定

### あしがき

本年度の重点活動、国民運動「早寝、早起き、朝ごはん」が様々の活動場面で展開されました。「あたりまえ」のことが「あたりまえ」にできる親でありたいし、日々実践していくことが求められています。（J・T）